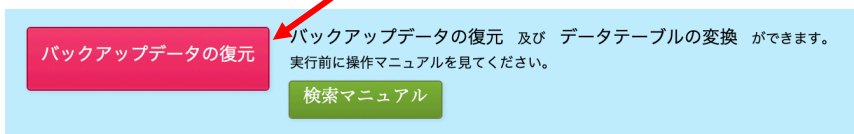


バックアップデータの復元と

データテーブルの変換について

有限会社シンシステムデザイン

1. バックアップしたデータの復元について
補助作業メニューで次のボタンを押してください。



次のような画面が開きますので、復元先（時系列でデータを保存した場所）を確認したら”選択”のボタンを押してください。下記の例は Mac の場合です。



- ・ 念のために、復元先に”TYONdata.fmp12”のファイルがあることを確認してください。
- ・ この処理を実行すると、現在のデータは復元先のデータに置き換わり元に戻すことはできません。

2. データテーブルの変換が必要な場合

通常のバージョンアップは、以下のような操作は不要ですが、プログラムの改良に伴いデータテーブルの変換が必要になることがあります。

その場合は、ユーザー様に連絡しますので、お手数をおかけしますが次のような操作をしてください。

- ① 当社 HP より、体験版(TYONp.zip) をダウンロードします。
- ② このファイルを解凍すると、次のようなフォルダ名で解凍されますので保存先が同じ場所でも上書きされることはありません。
図書館 FM2
- ③ このソフトを起動して、
補助作業おメニュー ⇒ **バックアップデータの復元** を実行してください。
読み込み方は“バックアップデータの復元”と同じ手順です。
- ④ 復元先は、“図書館 FM”のフォルダを指定します。
または、時系列で保存したデータの一番新しいものを選んでください。

以上の操作によりデータは新しいシステムに対応したデータテーブルに変わります。

【補足】

バージョンアップを行なって、バージョン情報の“X”が変わっていた場合は、このページの手順のように“データ変換”を実行してください。

バージョン情報は、FMx.y

X が今までと変わった場合は、データ変換が必要なバージョンです。

Y はプログラムだけのバージョンアップ番号です。

X が変わった場合の例

FM1.65 ⇒ FM2.1

このように X の数値が変わった場合は次のようにしてください。